

地震、津波被害

インドネシア

支援活動報告

AMDA

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市北区伊福町）は17日、9月に地震と津波で甚大な被害を受けたインドネシア・スラウエシ島で行った支援活動についての報告会を同市内で開いた。

今月7日から9日間、同島へ滞在した調整員で看護師の米田恭子さん（49）は北九州市が報告。AMDAインドネシア支部のスタッフが被災地で毛布や

被災地での支援活動について報告する米田さん



非常食を配ったほか、日本から派遣された医師と看護師がけが人の応急処置に当たったことなどを紹介した。

被災地ではまだ余震が続ки、建物の倒壊を恐れて屋外で寝起きしている人もいます。米田さんは「誰もが今後の生活に不安を

抱えており、心のケアが必要になる」と話した。（小川耕平）